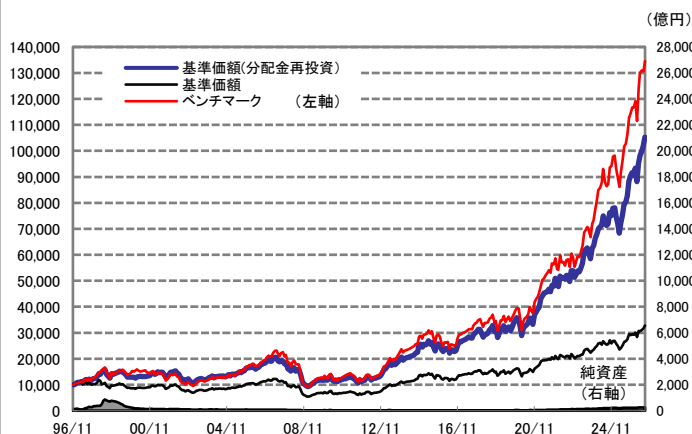


運用実績

2026年8月31日 現在

運用実績の推移

(設定日前日＝10,000として指数化：月次)



・上記の指数化した基準価額(分配金再投資)の推移および右記の騰落率は、当該ファンドの信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものとして計算しております。従って、実際のファンドにおいては、課税条件によって受益者ごとに指数、騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮しておりません。

ベンチマークであるMSCI ワールド インデックス (税引後配当込み、円換算ベース)は、設定日前日を10,000として指数化しております。ただし、指数データの関係上2001年1月末までは「配当無し」となります。

基準価額※

32,760 円

※分配金控除後

純資産総額

260.2 億円

騰落率

期間	ファンド	ベンチマーク
1ヵ月	3.3%	3.0%
3ヵ月	7.2%	3.5%
6ヵ月	12.8%	12.9%
1年	31.4%	31.0%
3年	68.0%	90.1%

騰落率の各計算期間は、作成基準日から過去に遡った期間としております。

設定来 952.9%

1,245.0%

設定来累計

17,710 円

設定来＝1996年11月29日以降

基準価額変動の要因分解(概算)

要因項目	直近1ヵ月の騰落
基準価額騰落額(分配金込み)	1,042 円
株価要因	1,141 円
為替要因	-55 円
その他(信託報酬等)	-44 円

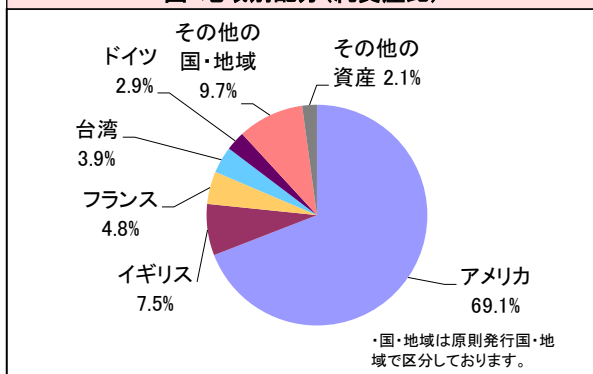
※分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。
※ファンドの分配金は投資信託説明書(交付目論見書)記載の「分配の方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

・左記は、基準日の直近1ヵ月の基準価額(分配金込み)の騰落額を委託会社が一定の条件の基に算出したもので、円貨にて表示しております。

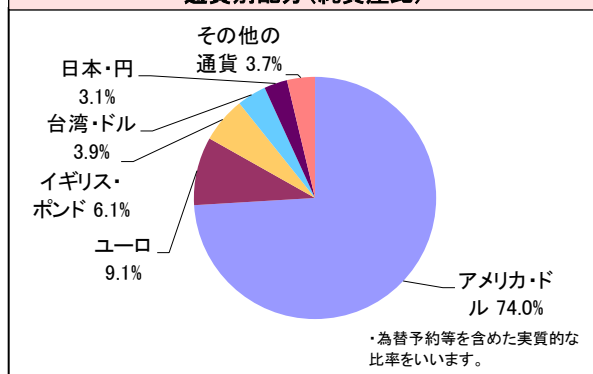
資産内容

2026年8月31日 現在

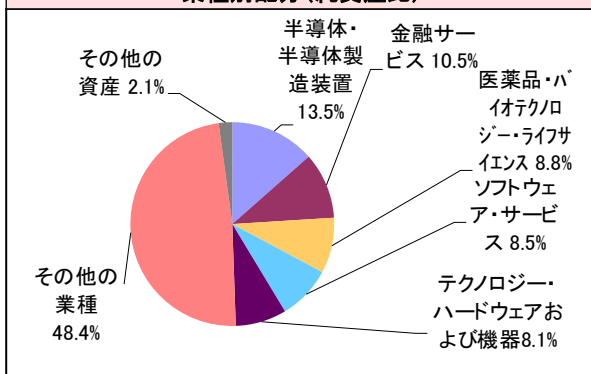
国・地域別配分(純資産比)



通貨別配分(純資産比)



業種別配分(純資産比)



配当利回り

マザーファンドの配当利回り*	1.7%
----------------	------

*マザーファンドの配当利回り：一株当たりの過去1年の発表済み配当金額を、外国株は作成基準日の前営業日の株価で、日本株は作成基準日の株価で割ったものを、マザーファンドの組入比率で加重平均して算出しております。また、算出においては、税金や信託報酬などは考慮しておりません。マザーファンドの配当利回りは、ファンドの運用実績(騰落率)ではありません。

・純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡しの投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。

◆設定・運用は

NOMURA 野村アセットマネジメント

商号：野村アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号
加入協会：一般社団法人資産運用業協会／
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

組入上位10銘柄の解説

2026年8月31日 現在

銘柄	国・地域	業種	純資産比	配当利回り	ROE	組入銘柄数 : 84 銘柄 ・国・地域は原則発行国・地域で区分しております。 ・純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。 ・配当利回りは、一株当たりの過去1年の発表済み配当金額を、外国株は作成基準日の前営業日の株価で、日本株は作成基準日の株価で割って表示しております。配当金額は、税金を考慮しておりません。 ・ROE(自己資本利益率)は、過去1年の発表済みの当期純利益と自己資本(株主資本)から算出されたデータを表示しております。
MICROSOFT CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	4.8%	0.7%	30.2%	
TAIWAN SEMICONDUCTOR	台湾	半導体・半導体製造装置	3.9%	1.1%	40.6%	
ALPHABET INC-CL A	アメリカ	メディア・娯楽	3.6%	0.2%	32.8%	
BROADCOM INC	アメリカ	半導体・半導体製造装置	3.6%	0.7%	29.1%	
NVIDIA CORP	アメリカ	半導体・半導体製造装置	3.2%	0.2%	76.6%	
APPLE INC	アメリカ	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	2.6%	0.3%	151.2%	
MASTERCARD INC	アメリカ	金融サービス	2.5%	0.6%	199.5%	
SALESFORCE INC	アメリカ	ソフトウェア・サービス	2.2%	0.7%	13.3%	
SCHNEIDER ELECTRIC SE	フランス	資本財	2.1%	1.4%	18.3%	
MERCK & CO INC	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	2.1%	2.3%	43.5%	
合計			30.5%	—	—	

	銘柄	組入銘柄解説
1	MICROSOFT CORP マイクロソフト	PC向け基本ソフト、ウィンドウズとオフィス製品が主力。ソフトウェアのサブスクリプション型モデルへの移行に成功し収益力を強化していることや、企業向けクラウド事業が継続的に成長している点を評価。近年、株主還元を強化し配当開始以来10年を超える増配記録を持つ。
2	TAIWAN SEMICONDUCTOR 台湾セミコンダクター	台湾に本拠を置く半導体の受託製造会社。製造プロセスの微細化で競合他社に先行していることで、アップルやエヌビディアなど多くの顧客を保有している点を評価している。AI向け半導体製造の多くを受注しており、高水準の成長が継続するものと見ている。
3	ALPHABET INC-CL A アルファベット	米「グーグル」を傘下に持つ大手インターネット検索企業。検索事業にとどまらずクラウドやAI事業など今後市場拡大期待が高い複数分野においての高い競争力を評価している。2024年に自社株買いと同社初めての普通配当を発表するなど株主還元意識に改善が見られ、今後もさらなる改善を期待している。
4	BROADCOM INC ブロードコム	米国の半導体製造会社。スマートフォンやデータセンター、通信インフラ向けの半導体で高い市場シェアを有しており、今後はAI向けカスタム半導体の需要拡大が業績をけん引するものと期待している。潤沢なキャッシュフロー(現金収支)を背景に増配を継続しているほか、積極的な自社株買いも評価できる。
5	NVIDIA CORP エヌビディア	AI開発には欠かせないデータセンター向け高性能GPU(画像処理半導体)を提供する世界的な半導体メーカー。ゲームや映画での美しいグラフィックスを可能にしたプロセッサ技術からスタートし、データセンター向けに領域を拡大した。同社の技術はAIや自動運転などの高成長が期待される分野で極めて重要な役割を担っており、業績成長に伴い株主還元が強化されるものと期待している。
6	APPLE INC アップル	PC及びスマートフォンの製造販売。主力商品iPhoneの販売サイクルによる業績変動はあるものの、サービス収入の拡大により収益の安定性が改善している点を評価。近年、配当及び自社株買いにより株主還元を加速させている点も評価している。
7	MASTERCARD INC マスターカード	米国の大手クレジットカード会社。クレジットカード及びデビットカードのMastercard®、Maestro®、グローバルATMネットワークのCirrus®のブランドを展開し、グローバルに決済ソリューションを提供する。世界的な非現金取引の拡大を背景とした売上拡大余地と積極的な株主還元策を評価している。
8	SALESFORCE INC セールスフォース	米国の大手ソフトウェア企業。顧客管理ソリューションを中心にクラウドサービスを提供する。顧客管理ソリューション市場において高いシェアを保有する。AI機能の利用拡大や他社のAIモデルとの連携が進むことで、売上の成長加速と株価の再評価が期待できるものとみて注目している。
9	Schneider Electric SE シュナイダーエレクトリック	フランスの大手電機企業。欧州で各種電源装置や配電ソリューションの提供を行なう。同社の製品は電気自動車の充電設備からデータセンターの配電まで様々な用途で利用されている。脱炭素社会構築の動きの中で高効率の電源ソリューションに対する需要が高まっており、中期的な成長が期待できる点を評価している。
10	MERCK & CO. INC. メルク	米国の大手製薬企業。優れた性能と豊富な臨床データにより高い人気を誇るがん治療薬や糖尿病治療薬などを主力製品としている。主力抗がん剤の特許切れが迫るなか、後継薬の開発が順調に進んでおり、それらの将来的な収益貢献に注目している。

(出所)「組入銘柄解説」は、Bloomberg、各社ホームページ等の情報提供に基づき野村アセットマネジメントが作成しています。

(注)当資料はファンドの上位組入銘柄の参考情報を提供することを目的としており、特定銘柄の売買などの推奨、また価格などの上昇や下落を示唆するものではありません。

ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)(ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。

先月の投資環境

○ 米国:株式市場は、上旬は、ホルムズ海峡の運航再開を巡り、米国とイランの合意が近いとの期待などから原油価格が下落し、インフレ懸念が後退したことや、7月の軟調な雇用統計を受け、利上げ観測が後退したことなどから上昇しました。中旬は、中東情勢の緊張が再び高まり、原油価格の高止まりがインフレを押し上げると懸念されたことや、金利の高止まりなどを警戒し下落する場面もありましたが、月末にかけては旺盛なAI需要に支えられた大手半導体企業の好決算などを受けて上昇し、月間でも上昇しました。

○ 欧州:株式市場は、上旬は、中東情勢の緊張が一時緩和し、原油価格が下落したことなどが好感され、上昇しました。中旬は、中東情勢の緊張が再び高まり、原油価格の高止まりがインフレを押し上げると懸念されたことなどから下落しましたが、その後は、8月のユーロ圏総合PMI(購買担当者景気指数)が市場予想を上回ったことなどが好感されて上昇しました。

○ アジア地域:東京株式市場は、中東情勢の緊張が一時緩和したことや、発表された日本の企業決算が総じて堅調だったことなどを背景に上昇しました。また、日本を除くアジア・オセアニア株式市場は、韓国のハイテク株が堅調だったことなどから上昇しました。

○ 為替:日米当局による協調介入を受け持続的な円買い介入が警戒されたことから円高・ドル安が進行し、その後、日米金利差拡大への期待などから円安・ドル高が進んだものの、月末のドル・円レートは160円2銭と、月間で0円70銭の円高・ドル安となりました。また、月末のユーロ・円レートは185円50銭と、月間で0円38銭の円安・ユーロ高となりました。

先月の運用経過

(運用実績、分配金は、課税前の数値で表示しております。)

○ 月間の基準価額(分配金再投資)の騰落率は+3.29%となり、ベンチマーク騰落率を0.28ポイント上回りました。ベンチマーク対比では、株価騰落率がベンチマークを上回った米国や台湾の情報技術株のオーバーウェイト(ベンチマークと比べて高めの投資比率)がプラスに寄与しました。

○ 月間の主な売買:米国の資本財・サービス株や英国のヘルスケア株などを買い付けした一方、英国の金融株や米国の情報技術株などを売却しました。

○ 為替については、為替ヘッジを行いませんでした。

今後の運用方針(2026年9月4日 現在)

(以下の内容は当資料作成日時点のものであり、予告なく変更する場合があります。)

○ 米国経済は、底堅い動きが続いています。7月の非農業部門雇用者数は前月差-2.3万人と減少しましたが、特定業種の影響が大きく、労働市場全体は弱含んでいないとみています。物価面では、7月のCPI(消費者物価指数)は前年同月比+3.4%となり、6月に続いて伸び率鈍化が継続しました。7月のFOMC(米連邦公開市場委員会)の議事要旨では、多くの参加者が、追加関税やエネルギー価格上昇の影響が和らぐにつれインフレ率は鈍化すると予想していることが確認されました。しかし、インフレが再加速した場合には利上げとなる可能性もあるため、引き続き、物価や雇用、金融政策の動向には注視が必要と考えています。

○ 銘柄選択は、①過去の配当の増加実績や配当利回りの水準などによる定量スクリーニングを行ないます。②更に経営の優れている企業を選別するために、企業理念や企業文化に着目した調査・分析を行ない、定性的に判断します。

○ ポートフォリオの構築に当たっては、収益性について過去のROE(自己資本利益率)水準を考慮し、割安度の判断においては配当利回りを重視しながら投資を行ないます。ポートフォリオ全体のROE、および配当利回りは市場平均を上回る水準を維持します。

○ 為替ヘッジは、経済指標や市場動向を注視し、円高が急速に進行すると思われる局面では、その影響を回避するよう努める考えです。

ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)/ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡しの投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。

◆設定・運用は

NOMURA 野村アセットマネジメント

商号:野村アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号
加入協会:一般社団法人資産運用業協会/
一般社団法人第二種金融商品取引業協会



ファンドの特色

- 信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。
- 内外の株式(DR(預託証券)*1を含みます。)を実質的な主要投資対象*2とします。
※1 Depository Receipt(預託証券)の略で、ある国の株式発行会社の株式を海外で流通させるために、その会社の株式を銀行などに預託し、その代替として海外で発行される証券をいいます。DRは、株式と同様に金融商品取引所などで取引されます。
※2「実質的な主要投資対象」とは、「グローバル・バリュー・オープン マザーファンド」を通じて投資する、主要な投資対象という意味です。
- 世界各国の株式の中から優良銘柄を厳選し、ポートフォリオを構築します。
◆株式への投資にあたっては、配当利回り等の各種バリュー指標をもとに、ポートフォリオマネージャーの判断に基づき割安と思われる銘柄に投資を行なうことを基本とします。
◆主な投資対象国は、アメリカ・イギリス・日本等の主要国です。地域、国、銘柄に分散投資することで、ファンド全体のリスクを低く保つことを目指します。
◆バリュー投資を有効に機能させるため、主要国の中・大型株が中心となります。主要国以外でも特に投資魅力のある銘柄は個別に組み入れを検討します。
- 「バリュー投資」を基本とします。
◆ファンドは、「配当利回り」に着目することに加え、各種バリュエーション指標を参考にし、割安性を重視した投資を行なうことを基本とします。
- ボトムアップ・アプローチで銘柄を選択します。
◆銘柄選択にあたっては、個々の企業の調査・分析により銘柄を選択します。
◆ファンドは安定的な収益力が見込まれる企業を重視します。
- 株式の実質組入比率は、原則として高位を維持することを基本とします。ただし、市場動向等により弾力的に変更を行なう場合があります。
- MSCI ワールド インデックス(税引後配当込み、円換算ベース)*をベンチマークとします。
※「MSCI ワールド インデックス(税引後配当込み、円換算ベース)」は、MSCI World Indexをもとに、委託会社が円換算したものです。

■ 指数の著作権等について ■

MSCI World Indexは、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

- 為替ヘッジについては、弾力的に対応します。
- ファンドは「グローバル・バリュー・オープン マザーファンド」を通じて投資するファミリーファンド方式で運用します。
- マザーファンドの運用にあたっては、ノムラ・アセット・マネジメントU.K.リミテッドに、運用の指図に関する権限の一部を委託します。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

ファンドは、株式等を実質的な投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替の変動により基準価額が下落することがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

【お申込メモ】

- 信託期間 無期限(1996年11月29日設定)
- 決算日および収益分配 年2回の決算時(原則5月および11月の28日。休業日の場合は翌営業日)に分配の方針に基づき分配します。
- ご購入価額 ご購入申込日の翌営業日の基準価額
- ご購入単位 一般コース:1万口以上1万口単位(当初元本1口=1円)
または1万円以上1円単位
自動引けぞり投資コース:1万円以上1円単位
※お取扱いコース、ご購入単位は販売会社によって異なる場合があります。
- ご換金価額 ご換金申込日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額
- 課税関係 個人の場合、原則として分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。ただし、NISA(少額投資非課税制度)の適用対象ファンドにおいてNISAを利用した場合には課税されません。ファンドは、NISAの「成長投資枠」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。なお、税法が改正された場合などには、内容が変更になる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

【当ファンドに係る費用】

◆ご購入時手数料	ご購入価額に3.3%(税抜3.0%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 *詳しくは販売会社にご確認ください。
◆運用管理費用(信託報酬)	ファンドの純資産総額に年1.672%(税抜年1.52%)の率を乗じて得た額が、お客様の保有期間に応じてかかります。
◆その他の費用・手数料	組入保有証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、外貨建資産の保管等に要する費用、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、ファンドに関する租税等がお客様の保有期間中、その都度かかります。 ※これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。
◆信託財産留保額(ご換金時)	1万口につき基準価額に0.3%の率を乗じて得た額 上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に依って異なりますので、表示することができません。 ※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

＜分配金に関する留意点＞

- 分配金は、預貯金の利息とは異なりファンドの純資産から支払われますので、分配金支払い後の純資産はその相当額が減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。
- ファンドは、計算期間中に発生した運用収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて分配を行なう場合があります。したがって、ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。計算期間中に運用収益があった場合においても、当該運用収益を超えて分配を行なった場合、当期決算日の基準価額は前期末決算日の基準価額と比べて下落することになります。
- 投資者の個別元本(追加型投資信託を保有する投資者毎の取得元本)の状況によっては、分配金額の一部または全部が、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりがかさった場合も同様です。

【ご留意事項】

- ・投資信託は金融機関の預金と異なり、元本は保証されていません。
- ・投資信託は預金保険の対象ではありません。
- ・登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金制度が適用されません。

ファンドの販売会社、基準価額等については、下記の照会先までお問い合わせください。

野村アセットマネジメント株式会社
★サポートダイヤル★ 0120-753104(フリーダイヤル)
＜受付時間＞ 営業日の午前9時～午後5時
★インターネットホームページ★ <https://www.nomura-am.co.jp/>

＜委託会社＞ **野村アセットマネジメント株式会社**
[ファンドの運用の指図を行なう者]
＜受託会社＞ **三井住友信託銀行株式会社**
[ファンドの財産の保管および管理を行なう者]

ファンドは、流動性のある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡しの投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。

◆ 設定・運用は

NOMURA 野村アセットマネジメント

商 号: 野村アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号
加入協会: 一般社団法人資産運用業協会 / 一般社団法人第二種金融商品取引業協会

グローバル・バリュー・オープン

お申込みは

金融商品取引業者等の名称		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 資産運用業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
PayPay銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第624号	○		○	
株式会社北海道銀行	登録金融機関	北海道財務局長(登金)第1号	○		○	
株式会社秋田銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第2号	○			
株式会社東北銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第8号	○			
株式会社武蔵野銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第38号	○			
株式会社千葉銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第39号	○		○	
株式会社八十二長野銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第49号	○		○	
スルガ銀行株式会社	登録金融機関	東海財務局長(登金)第8号	○			
株式会社大垣共立銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第3号	○		○	
株式会社十六銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第7号	○		○	
株式会社百五銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社滋賀銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第11号	○		○	
株式会社京都銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社但馬銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第14号	○			
株式会社鳥取銀行	登録金融機関	中国財務局長(登金)第3号	○			
株式会社福岡銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第7号	○		○	
株式会社十八親和銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第3号	○			
株式会社鹿児島銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第2号	○			
株式会社琉球銀行	登録金融機関	沖縄総合事務局長(登金)第2号	○			
株式会社西日本シティ銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第6号	○		○	
株式会社大光銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第61号	○			
株式会社熊本銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第6号	○			
株式会社豊和銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第7号	○			
労働金庫連合会	登録金融機関	関東財務局長(登金)第269号				
三菱UFJ eスマート証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	○
池田泉州TT証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第370号	○			
いちよし証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第24号	○	○		
リーディング証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第78号	○			
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○	○	○	○
OKB証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第191号	○			
九州FG証券株式会社	金融商品取引業者	九州財務局長(金商)第18号	○			
極東証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第65号	○			○
寿証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第7号	○			
十六TT証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第188号	○			
株式会社スマートプラス	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第3031号	○	○		○
ちばぎん証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第114号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第140号	○	○	○	○
SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。

※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。

グローバル・バリュー・オープン

お申込みは

金融商品取引業者等の名称		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 資産運用業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
岡三ビジネス&テクノロジー証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第170号	○	○		
野村證券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第142号	○	○	○	○
浜銀TT証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第1977号	○			

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。
※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。

グローバル・バリュー・オープン

以下は、取次販売会社または金融商品仲介による販売会社です。
お申込みは

金融商品取引業者等の名称		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 資産運用業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
北海道労働金庫	登録金融機関	北海道財務局長(登金)第38号				
東北労働金庫	登録金融機関	東北財務局長(登金)第68号				
中央労働金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第259号				
新潟県労働金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第267号				
長野県労働金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第268号				
静岡県労働金庫	登録金融機関	東海財務局長(登金)第72号				
北陸労働金庫	登録金融機関	北陸財務局長(登金)第36号				
東海労働金庫	登録金融機関	東海財務局長(登金)第70号				
近畿労働金庫	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第90号				
中国労働金庫	登録金融機関	中国財務局長(登金)第53号				
四国労働金庫	登録金融機関	四国財務局長(登金)第26号				
九州労働金庫	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第39号				
沖縄県労働金庫	登録金融機関	沖縄総合事務局長(登金)第8号				
株式会社イオン銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第633号	○			
株式会社肥後銀行 (委託金融商品取引業者 九州FG証券株式会社)	登録金融機関	九州財務局長(登金)第3号	○			
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。
※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。